

この装置は、市町村防災行政無線システムの固定系の戸別受信装置で、市町村役場、または農協等の親局から送られて来る防災行政放送の電波を、各家庭で聴取することができます。



この装置は、無線受信部、デジタル信号処理部および電源部から構成されております。通常は電灯線電源（AC100V）で動作していますが、停電時には、自動的に内蔵乾電池に切り換わり、災害、緊急時においても、重要な放送を聞きのがす事のないよう配慮されています。

なお、この装置は、機能および安全性に対し、充分配慮しておりますが、正しくお使いいただくために、この取扱説明書を、必ずお読み下さるようお願い申し上げます。また、いつでもお読みいただける所に大切に保管して下さい。




安全上のご注意

■警告表示について

下の表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。内容をよくご理解のうえ、本文をお読み下さい。




| | |
|---|---|
|  警告 |  注意 |
| この表示を無視して、誤った取り扱いをすると人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。 | この表示を無視して、誤った取り扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。 |

また、危害や損害の内容がどのような種類のものかを区別するために、左記の表示と同時に次のような記号を使っています。

| 記号の例とその意味 | |
|---|---|
|  | △で示した記号は、警告・注意を促す事項があることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容を示す絵（左の例の場合は、感電注意）が示されています。 |
|  | ⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中や脇には、具体的な禁止内容（左の例の場合は、分解禁止）が示されています。 |
|  | ●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容（左の例の場合は、電源プラグをコンセントから抜いて下さい）が示されています。 |




万一、異常が発生したとき













 **警告**

-  ●万一、受信装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに受信装置の電源スイッチを「切」にし、必ず電源コードの電源プラグをコンセントから抜いて下さい。煙が消えるのを確認してサービス窓口にて修理をご依頼下さい。お客様自身による修理は危険です絶対におやめ下さい。異常のまま使用すると、感電・火災の原因となります。
-  ●異物（水・金属片・液体など）が受信装置の内部に入った場合は、ただちに受信装置の電源スイッチを「切」にし、必ず電源コードの電源プラグをコンセントから抜いて下さい。その後、サービス窓口にご連絡下さい。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。とくにお子様のいるご家庭ではご注意ください。
-  ●受信装置を落としたり、カバーを破損したり、またはロッドアンテナが折れた場合は、ただちに受信装置の電源スイッチを「切」にし、必ず電源コードの電源プラグをコンセントから抜いて下さい。その後、サービス窓口にご連絡下さい。そのまま使用すると、感電・火災・けがの原因となります。










本体の取り扱いについて





 **警告**

-  ●電源スイッチを「入」にしても、前面の電源ランプがつかないなどの故障状態では、受信装置を使用しないで下さい。故障の修理は、サービス窓口にご依頼下さい。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
-  ●開口部から受信装置内部に、金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないで下さい。感電・火災の原因となります。
-  ●受信装置の上または近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水の入った容器や「クリップ・ピン」などの金属物を置かないで下さい。感電・火災の原因となります。

-  ●台所など、湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に受信装置を設置しないで下さい。感電・火災の原因となります。
-  ●受信装置に水をかけたり、濡らしたりしないで下さい。感電・火災の原因となります。
-  ●電源コードを傷つけたり、加工したりしないで下さい。重いものをのせたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源コードを傷め、感電・火災の原因となります。
-  ●風呂場、シャワー室など、水のかかる場所で受信装置を使用しないで下さい。感電・火災の原因となります。
-  ●濡れた手で電源コードの電源プラグを抜き差ししないで下さい。感電の原因となります。
-  ●電源コードの電源プラグやコネクタの金属部分に手を触れないで下さい。感電の原因となることがあります。
-  ●電源コードが傷んだときや、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないで下さい。そのまま、使用すると、感電・火災の原因となります。修理は、サービス窓口にご依頼下さい。
-  ●電源コードは、家庭用電源（AC100V）に接続して下さい。また、タコ足配線しないで下さい。感電・火災の原因となります。
-  ●電源コードの電源プラグおよびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭いて下さい。そのまま、使用すると、火災の原因となります。
-  ●受信装置をお客様ご自身で分解・改造しないで下さい。感電・火災の原因となります。
-  ●受信装置のカバーは、乾電池交換に必要な場合を除いて取り外さないで下さい。内部の点検、修理は、サービス窓口にご依頼下さい。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。
-  ●雷が鳴っているときは、ロッドアンテナを伸ばした状態で屋外で使用しないで下さい。感電・けがの原因となります。


⚠ 注意

-  ●受信装置の上に重いものを置かないで下さい。また、衝撃を与えないで下さい。
バランスが崩れて倒れたり、落下して、けがの原因になります。
-  ●振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないで下さい。
倒れたり、落下して、けがの原因になることがあります。
-  ●ロッドアンテナを伸ばしているときは、目などを近付けないで下さい。
けがの原因となる場合があります。
-  ●受信装置は、アース線にて接地して下さい。
感電の原因となる場合があります。
-  ●電源コードの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いて下さい。
電源コードを引っ張ると、電源コードの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因になる場合があります。
-  ●直射日光の当たる場所や炎天下の車内など、高温になる場所に長時間放置しないで下さい。
高熱によってカバーなどが加熱・変形・溶解する原因となったり、受信装置内部が高温になり、火災の原因となる場合があります。
-  ●異物（水・金属片・液体など）が受信装置の内部に入った場合は、ただちに受信装置の電源スイッチを「切」にし、必ず電源コードの電源プラグをコンセントから抜いて下さい。その後、サービス窓口にご連絡下さい。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
-  ●電源コードは、指定外の電源コードを使用しないで下さい。
火災・けがの原因となる場合があります。
-  ●使用中の受信装置は、布などでおおったり、包んだりしないで下さい。
熱がこもり、火災の原因となる場合があります。

-  ●電池の交換は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、また、外部アンテナを接続している場合は、F形コネクタを外して、安全な場所へ本体を移動してから行なって下さい。
けがの原因になることがあります。
-  ●受信装置を長時間使用しないときは、安全のため電源スイッチを「切」にし、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
感電・火災の原因となる場合があります。
-  ●電源コードの電源プラグは、コンセントの奥まで差し込んで下さい。
感電・火災の原因となる場合があります。
-  ●受信装置のロッドアンテナが折れた場合、正常に放送を受信することができません。ただちに受信装置の電源スイッチを「切」にし、必ず電源コードの電源プラグをコンセントから抜いて、その後、修理をサービス窓口にご依頼下さい。
けがの原因となる場合があります。


乾電池の取り扱いについて

⚠ 注意

-  ●乾電池はショートさせたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてしないで下さい。
乾電池の破裂、液もれにより、火災・けが・周囲を汚す原因となる場合があります。
また、ニカド電池の使用は、しないで下さい。

その他

⚠ 警告

-  ●乾電池を取り外した場合は、小さなお子様乾電池を誤って口に入れることがないように、小さなお子様の届かないところに置いて下さい。
万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談して下さい。

□各部の名称と機能□

この装置各部の名称と機能を示します。

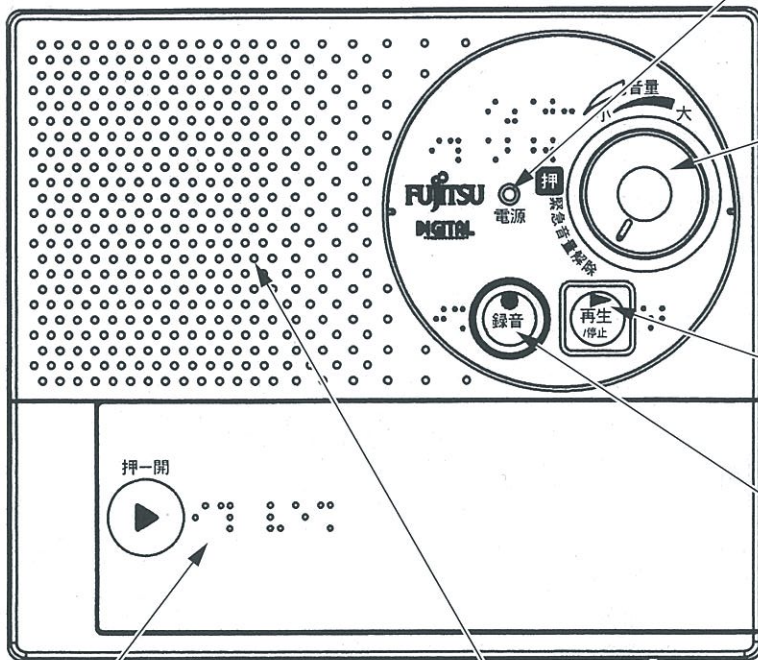


図1-1 正面

電池フタ

右方向にスライドさせますとフタが開きます。閉じるときは、左方向にスライドさせてしっかりと閉まるのを確認して下さい。

スピーカ

放送を受信すると、スピーカは自動的に接続され放送を聴取できます。

電源表示ランプ「電源」

正常時には、緑色のランプが点灯します。放送時は橙色に点灯します。橙色点滅は、“圏外”表示です。電波の受信しやすい場所へ移動し、再度、電源スイッチを入れ直して下さい。※詳しくは「故障とお考えになる前に」を参照して下さい。

音量調整ボリューム・緊急音量解除スイッチ

音量を調整します。右方向に回すと音量が大きくなります。ボリューム部分を押しと強制最大音量を解除することが出来ます。

緊急音量解除スイッチを押すことでスイッチが点灯・消灯し、停電時には自動でスイッチが点灯します。点灯時、一定時間が経過すると自動で消灯します。緊急放送受信中は、スイッチが点滅します。

再生表示ランプ・再生/停止スイッチ

未再生の放送音があるとき緑色点灯します。一度押しと録音された放送の再生を行い、緑色点滅します。再度押しと停止します。2秒以上の長押しで次のメッセージ再生を行います。

録音表示ランプ・録音スイッチ

録音設定のとき点灯します。録音状態のとき点滅します。放送の録音設定と解除及び解除状態から手動で録音開始を行います。※電源スイッチを「切」にしても録音されているメッセージは保持されるようになっています。録音されているメッセージを消去する場合は「再生/停止」スイッチと「録音」スイッチを同時に3秒以上の長押しで全ての録音メッセージが消去されます。消去されるとスピーカから「ピー音」が出力されます。

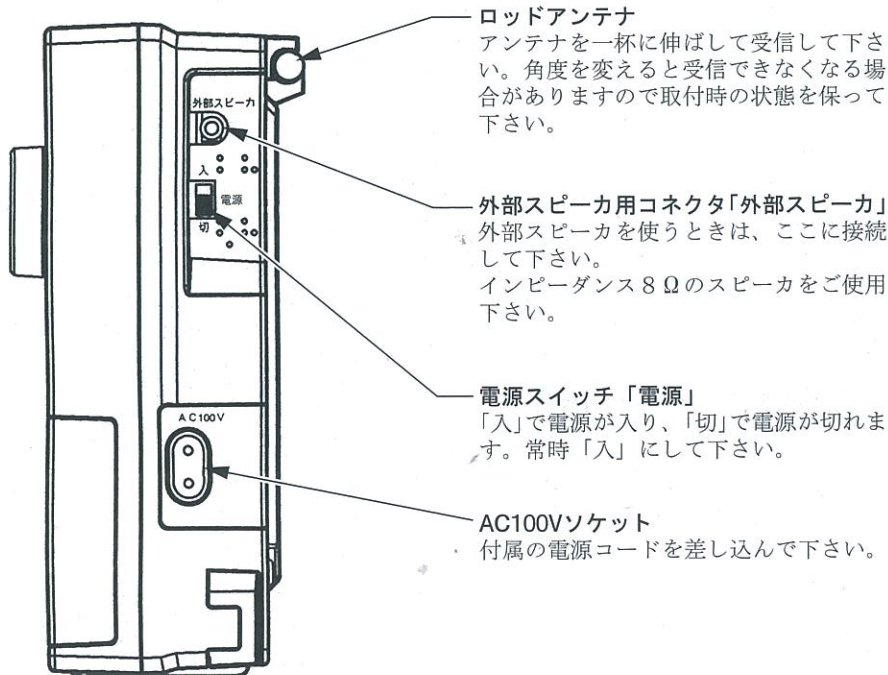


図1-2 右側面

ロッドアンテナ

アンテナを一杯に伸ばして受信して下さい。角度を変えると受信できなくなる場合がありますので取付時の状態を保って下さい。

外部スピーカ用コネクタ「外部スピーカ」

外部スピーカを使うときは、ここに接続して下さい。インピーダンス8Ωのスピーカをご使用下さい。

電源スイッチ「電源」

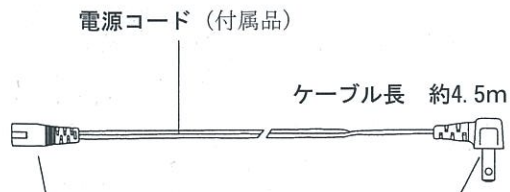
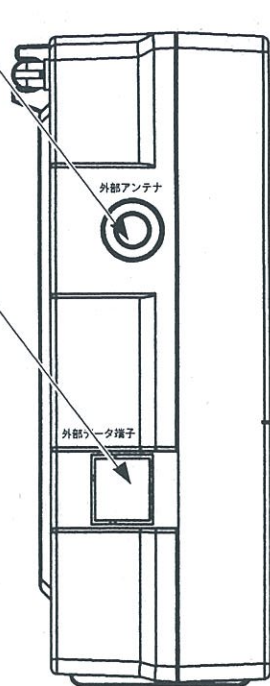
「入」で電源が入り、「切」で電源が切れます。常時「入」にして下さい。

AC100Vソケット

付属の電源コードを差し込んで下さい。

外部アンテナ用コネクタ「外部アンテナ」
電波の弱い所で、外部アンテナを使用する場合、F形コネクタ付の同軸ケーブルを接続します。このときロッドアンテナは、縮めておいて下さい。

外部データ用端子「外部データ端子」
外部データ端子付の戸別受信装置のみに実装されます。
オプションの外部機器を取り付ける時に使用します。



電源コード (付属品)

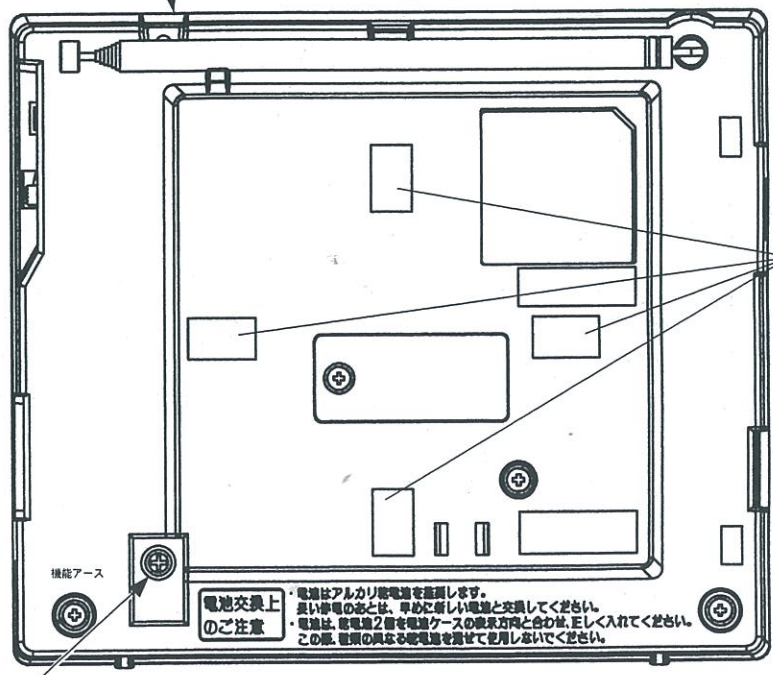
ケーブル長 約4.5m

ACプラグ
常時「AC100V」に差し込んでおいて下さい。

電源プラグ
使用中は必ずコンセントに差し込んでおいて下さい。
プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源スイッチを「切」にしてください。

図1-3 左側面

ハンドストラップ取付穴
ハンドストラップ(オプション)を使用する際、取付穴にキーナス管をはめこんでご使用下さい。



壁掛ホルダ用取付穴
壁掛ホルダ (付属品) に設置するとき使用します。

電池交換上のご注意
・電池はアルカリ乾電池を推奨します。
・古い乾電池のときは、早めに新しい電池と交換してください。
・電池は、乾電池2個を電池ケースの奥ま方向と合わせ、正しく入れてください。
・この際、電線の異なる乾電池を混ぜて使用しないでください。

図1-4 背面

アース接続用端子「機能アース」
アース線にて接地して下さい。

ご使用方法

□ 放送受信について □

放送の受信は、受信装置を次に述べるようにセットして行います。なお、この受信装置で受信する放送は、一般放送のように常には行われていません。また、放送途中で電源スイッチを入れても受信できない場合がありますのでご注意ください。

1. はじめに乾電池2個を装置内に装着して下さい。装着方法は、「電池の交換について」の項を、参照して下さい。
2. 外部アンテナによる受信の場合は、ロッドアンテナを縮めたまま図1-3に示す「外部アンテナ」のコネクタに外部アンテナからのアンテナプラグを接続します。ロッドアンテナによる受信の場合は、ロッドアンテナを一杯に伸ばします。
3. 電源コードのACプラグは、図1-2に示す「AC100V」のジャックに差し込みます。
4. 電源コードの電源プラグをコンセントに差し込みます。
5. 電源スイッチを「入」側にします。
6. 定時放送受信時に、音量調節ボリューム「音量」で適度な音量にして下さい。音量は、ボリュームを右側にまわすと大きくなり、左側にまわすと小さくなります。
なお、ボリュームを左側一杯にしても、音量は少し残るようになっています。
7. 本装置の設置場所を変更した場合（災害発生時に本装置を持ち出した場合等）は一度電源を入れ直して下さい。

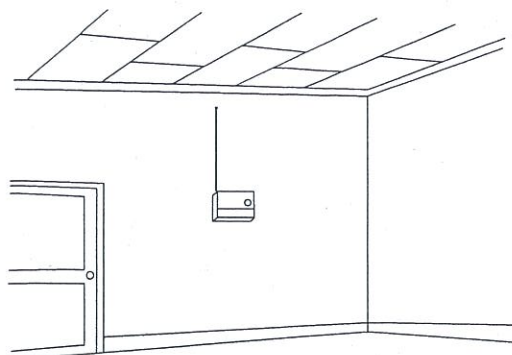


図2-1 設置例（ロッドアンテナ上向き）

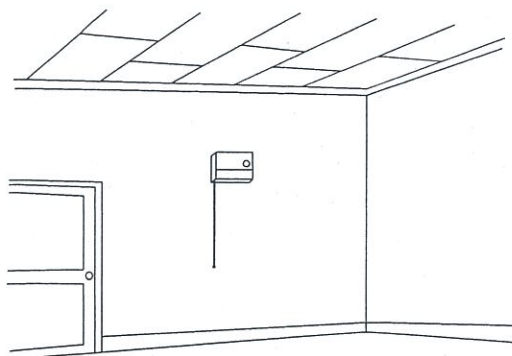


図2-2 設置例（ロッドアンテナ下向き）

□ 電池の交換について □

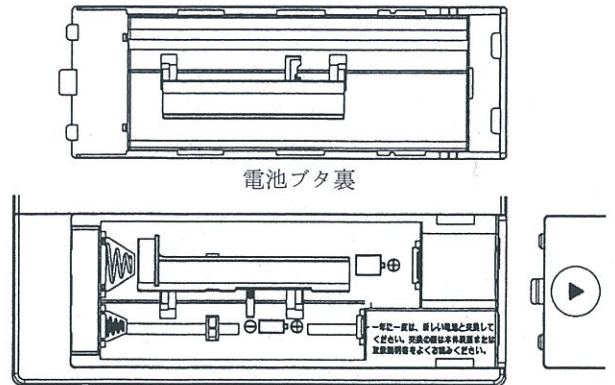
下記の状態が確認されたときには、内蔵の乾電池が消耗し、電圧が低下していますから乾電池を交換して下さい。乾電池は、単一、単二、単三乾電池のいずれか一種類を2本使用して下さい。種類の異なった乾電池を混ぜて使用しないで下さい。また、停電時間を考えると、単一アルカリ乾電池の使用をおすすめします。

- ① 正面操作部の「電源」ランプが「緑／赤色の交互点滅」もしくは「赤色点滅」したとき
- ② 放送終了後に以下のどちらかの警告音が鳴ったとき
 - ・ トーン警告音「ピッピッピッ…」が約1.5秒間鳴ったとき
 - ・ 音声警告音「電池残量が少なくなっています。電池を交換して下さい」が鳴ったとき

電池の交換は、次の手順により行います。

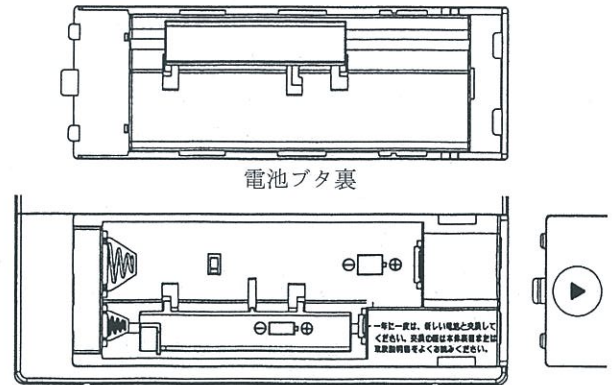
1. 電源スイッチを「切」側にし、正面操作部の「電源」ランプが消えたことを確認します。
2. 図1-1に示すように電池プタの「▶」の部分指で押しながら、右方向に動かすと電池プタがスライドします。古い乾電池を取り出して下さい。
3. 電池収容部に表示されている⊕⊖表示に従って、新しい乾電池を2本装着します。(図3-1、3-2を参照)
4. 電池プタを左方向にパチッと音がするまでスライドさせ、電池プタを閉じます。
5. 電源スイッチを「入」側にし、電源プラグをコンセントから抜いても、正面操作部の「電源」ランプが赤色に点灯していることを確認し、電源プラグを元通りコンセントへ差し込みます。「電源」ランプは赤色から緑色の点灯に変わります。
6. 使用済の乾電池は、お子様の届かないところに置き、公民館、ゴミステーションおよび電気店などにある専用の回収箱、回収缶などに廃却して下さい。

[単二のとき]



<本体>図3-1 単二電池使用の場合

[単一、単三のとき]



<本体>図3-2 単一、単三電池使用の場合

一般的なご注意

□ 安全に正しくお使いいただくために □

1. この受信装置は、電灯線電源（AC100V）でお使い下さい。
2. この受信装置は、付属の電源コードを必ずお使い下さい。電源コードのACプラグは右側面の「AC100V」のジャックに、電源プラグは電源コンセントに差し込んで下さい。
3. 2ヶ月以上の長期間お使いにならない場合は、右側面の電源スイッチを「切」側にし、電源表示ランプが消灯した事を確認の上、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
4. 電源スイッチを切らずに、電源プラグをコンセントから抜くことはお避け下さい。自動的に内蔵乾電池に切り換わり、電池の消耗を早めます。
5. ケース内部は開かないで下さい。故障の原因となります。
6. 正面操作部の音量調節ボリューム「音量」は、適度な位置にあわせて下さい。
7. 内蔵乾電池の交換は、概ね1年毎に行ってください。電池がなくなったまま長期間放置すると、乾電池の漏液により、装置や、装置の周囲を損傷する事があります。
8. ケースがひどく汚れた時は、3項の操作を行った後に、少量の石けん水を含ませた布でふきとり、後に乾いた布でふき取って下さい。シンナーやベンジンは、使わないで下さい。

□ 設置場所について □

- この受信装置は、壁掛け形または据置形として、使用できるように設計されています。設置には、放送を聴取しやすく邪魔にならない場所を選ぶ他、下記の点に注意して下さい。
1. ケースや部品に悪影響を与えますので、直射日光の当たる場所、冷暖房器具の近く等、極端に暑い所や、湿気、ほこり、振動の多い所は、避けて下さい。
 2. ラジオ、テレビ等の電気機器とは、互いに影響する事があります。また、冷蔵庫、洗濯機等の消費電力の大きい機器からも、影響を受ける事がありますので、位置をできる限り離し、別のコンセントを使用して下さい。
 3. ロッドアンテナで受信する場合は、同じ室内でも電波の弱い所がありますので、予め確認した場所で使用して下さい。特に、コンクリート造、モルタル造等の建物は、電波を通しづらいので注意して下さい。なお、ロッドアンテナは図2に示すように、地面に対し垂直に、上または下方向へ向けて下さい。
 4. 電波を受信中、近くでヘアードライヤ、モータ等の使用は避けて下さい。雑音電波により、放送を完全に受信できなくなる事があります。万一、放送終了後もスピーカから雑音が出た場合には、一旦電源スイッチを「切」側にし、再度電源スイッチを「入」側にすると雑音は止まります。

次のことは必ずお守り下さい

- ※ 電源プラグは必ずコンセントに差し込んでおいて下さい。抜いたままにしておきますと、内蔵乾電池を消耗し、漏液によって、装置を損傷する事があります。
- ※ 装置の電源スイッチは、常時「入」にしておいて下さい。放送途中で電源を入れた場合、放送を受信できないことがあります。
- ※ 正面操作部「電源」のランプが「緑／赤色の交互点滅」もしくは「赤色点滅」した時は、内部の乾電池が消耗していますので乾電池を交換して下さい。
- ※ 外部アンテナを使用しないご家庭では、ロッドアンテナを一杯に伸ばしておいて下さい。アンテナが伸びていないと放送を受信できない事があります。
- ※ 装置は初めに設置した場所から、緊急時を除き動かさないで下さい。同じ室内でも場所によって、放送を受信できない事があります。緊急時等に設置場所を変更した場合は、電源スイッチを入れ直して下さい。

故障とお考えになる前に

装置の調子が悪いと、すぐ故障と考えがちですが、ちょっとした操作の違いや、接続不良のために起こることが多いものです。万一、動作がおかしいと思われるときは、一旦電源スイッチを切り、再度入れてみて下さい。それでも直らないときは、次の点を調べてみて下さい。

| 症 状 | 主 な 原 因 | 処 置 |
|---|---|--|
| 放送を受信できない 「電源」の緑色ランプが点灯していない。 | 電源スイッチが、入っていない。 電源プラグがコンセントに差し込んでなく、乾電池が消耗。 | 電源スイッチを「入」側にして下さい。 内蔵乾電池を交換する。電源プラグをコンセントに差し込んで下さい。 |
| 放送を受信できない 「電源」の緑色ランプが点灯している。 | 放送停止時 ・外部アンテナを使っていない場合。 ロッドアンテナが伸びていない。 ロッドアンテナが垂直になっていない。 ・外部アンテナを使っている場合。 外部アンテナのアンテナプラグと受信装置の「外部アンテナ」コネクタの接続不良。 | 放送時以外は、スピーカから何も聞こえてきません。 ロッドアンテナをきちんと伸ばし、垂直に立てる。装置の位置を少し変えてみて下さい。 アンテナプラグと外部アンテナのコネクタとを確実に接続して下さい。 |
| 放送を受信できない 「電源」のランプが橙色の点滅している。 | 受信圏外 | ・受信電波検出中です。しばらくそのままお待ち下さい。 1分程、「電源」ランプの状態が変わらない時は ・ロッドアンテナで受信している場合は、装置の設置位置を少し変えて電源スイッチを入れ直して下さい。 ・外部アンテナで受信している場合は、そのまま電源スイッチを入れ直して下さい。 |
| 「電源」のランプが赤と緑の交互点滅している。 放送終了後にアラーム音が出る。 | 内蔵乾電池の消耗。 | 新しい乾電池と全て交換して下さい。 尚、単一、単二、単三アルカリ乾電池のいずれか一種類で2本使用します。種類の異なる乾電池、又は古い乾電池を混ぜて使用しないで下さい。(単一乾電池を推奨) |
| 放送が途中で聞こえなくなる。 | 受信装置が、テレビ、パソコンや冷蔵庫の近くに置いてある。 | テレビ、パソコン、冷蔵庫等から離して下さい。 コンセントは別にして下さい。 |
| 放送時「プップ」 「ザザー」 「ブーン」という音が出る。 | ・近所で高周波ミシンを使っている。 ・自動車がアンテナの近くを通るため。 ・近くの無線局からの影響。 ・テレビ、パソコン、ラジオが近くにある。 | ・電波が弱い所では、起こり易いので、アンテナを強化して下さい。 ・アンテナは道路から離して下さい。 ・テレビ、パソコン、ラジオから離して下さい。 |

主な規格

| | | | |
|-----------------|--|---------|---|
| 1. 使用電波 | 60MHz帯デジタル変調 (16QAM) 電波 | 8. 予備電源 | 単一、単二、単三アルカリ乾電池のいずれか一種類で2本使用 |
| 2. 感 度 | 9 dB μ V以下 (BER: 1 \times 10 ⁻³) | 9. 寸 法 | 約198W \times 170H \times 58D (mm) (突起物を除く) |
| 3. 隣接チャンネル選択度 | 42dB以上 | 10. 質 量 | 本体 約1 kg (乾電池、電源コードを除く) |
| 4. スピーカ出力 | 0.5W以上 (AC100V使用時) | | |
| 5. 高周波入力インピーダンス | 50 Ω | | |
| 6. 電 源 | AC100V | | |
| 7. 消費電力 | 8 VA以下 (AC100V供給 待受け時) | | |

FUJITSU

株式会社 富士通ゼネラル
情報通信ネットワーク事業部
〒213-8502 川崎市高津区末長1116番地
☎044 (866) 1111 (大代表)